

## Q2 どのような検査をするのですか？

### 副鼻腔炎とは？

副鼻腔炎とは、鼻腔と隣接する骨の中の空洞（副鼻腔）に炎症が起こり、内部の粘膜が厚くなったり、分泌物が多くなったりする病気です。慢性の副鼻腔炎になると嗅覚障害が起こりやすくなりますが、なかでも増えているのが難治性の「好酸球副鼻腔炎」です。鼻茸（ポリープ）が多発して鼻づまりがひどくなり、早期に嗅覚障害が現れます。好酸球副鼻腔炎が発症する原因はよくわかっていませんが、何らかの免疫の異常によるものと考えられています。



- ・においを感じない
  - ・においがわかりづらい
  - ・本来と違うにおいがする
  - ・悪臭を発するものがないのに、悪臭を感じる
  - ・鼻内視鏡検査
  - ・鼻から細いファイバースコープ
- ▼問診  
発症時期や経過、症状、病歴、薬の服用歴、喫煙の有無などを確認します。症状については次のようなパターンがあります。
- ▼嗅覚検査  
5種類のにおいを嗅いで、においを初めて感じた濃度や何のにおいかを認識できた濃度を測定します。また、アリナミン®注射液を静脈に注射し、においを感じるまでの時間とにおいが消失するまでの時間を測定する検査もあります。
- ▼画像検査  
必要に応じて、副鼻腔のCT検査や、脳の状態を調べるために頭部MRI検査を行います。

においがわからないといった症状が1カ月以上続く場合は、1度、耳鼻咽喉科に相談してみてください。以下のような検査を行い、診断を確定します。

▼嗅覚検査  
プを挿入し、鼻腔内の腫れや鼻茸（ポリープ）など、におい分子の伝達を妨げているものがないかを調べます。

### A 問診のあと鼻内視鏡検査や嗅覚検査などを行います

## Q3 嗅覚障害は治りますか？

### 嗅覚トレーニング

においを感じない期間が長引くと、においを感じる嗅細胞が衰えてしまいます。嗅細胞は新陳代謝で新しい細胞に生まれ変わりますが、このときに必要なのが「においの刺激」です。新しく生まれた未熟な嗅細胞はにおいの刺激を受けることで成熟するため、積極的に意識してにおいを嗅ぐことが重要です。

医療機関によっては「嗅覚刺激療法」という嗅覚トレーニングを行っているところがありますが、自分でできることとしては、日常生活のなかでさまざまなものにおいを意識して嗅ぐことが、嗅覚の低下を防ぐことにつながります。



治療法は原因により異なりますが、ステロイド薬の点鼻や内服、ビタミン剤、代謝改善薬、漢方薬を用いた治療が基本です。アレルギー性鼻炎の場合は抗アレルギー薬、慢性副鼻腔炎の場合はマクロライド系の抗菌薬を使用します。最近では、鼻茸のある患者さんを対象に好酸球に作用するサイトカイン（生理活性物質）の働きを抑制する注射薬も登場しています。鼻茸が大きい場合は、内視鏡による手術で切除することもあります。

副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎などが原因となっている場合は1〜2カ月程度で回復すること

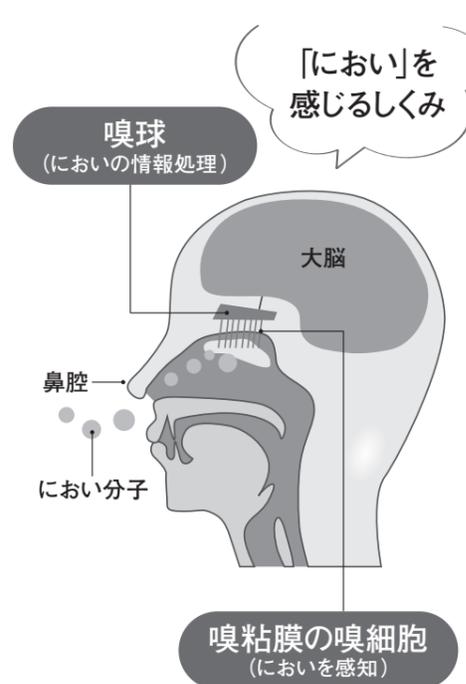
が多いのですが、ウイルス感染や頭部外傷などによる嗅覚障害には有効な治療法が確立されていません。しかし、嗅細胞は再生能力があるため、再生を促進する治療によって回復が期待できます。ただし、回復までに数カ月から数年かかることもあるため、気長に治療を続けることが大切です。

嗅覚は加齢とともに低下しますが、それによって味を感じにくくなり、食欲不振から低栄養、筋肉減少につながります。嗅覚は健康寿命を延ばすうえでも重要な感覚ですので、ぜひ左のトレーニングを続けてください。

### A 治りやすさは原因により異なりますが放置しないことが大切です

## Q1 なぜ、においがわからなくなるのですか？

### A 嗅覚障害を起こすしくみには3つのタイプがあります



まず、においを感じるしくみについて知っておきましょう。空気中の「におい分子」が鼻の中に入り、鼻腔の奥にある「嗅粘膜」の「嗅細胞」にとらえられると、その情報が脳の底部にある「嗅球」に伝えられ、おいとして感知されます（左図参照）。嗅覚障害はこの経路のどこかに不具合が起こることで発症します。嗅覚障害は原因によって、次の3つに分類されています。

① 気導性嗅覚障害（閉塞性）  
におい分子が嗅粘膜に到達できなくなることで起こります。原因としては、副鼻腔炎

（Q2参照）やアレルギー性鼻炎が多く、まれに腫瘍などで生じることもあります。

② 嗅神経性嗅覚障害  
呼吸器の病気を引き起こすウイルス感染や薬物・毒物などの影響により、嗅細胞が傷つくことにより起こります。加齢でも発症する場合があります。

③ 中枢性嗅覚障害  
脳がダメージを受け、においの情報を受け取れなくなったために起こります。原因は脳挫傷が多く、脳腫瘍、脳出血、脳梗塞のほか、アルツハイマー病やパーキンソン病などの初期症状として現れる場合もあります。

教えて  
ドクター！



知っておきたい  
健康相談室

食欲不振にもつながる

## 嗅覚障害

新型コロナウイルス感染症の後遺症の1つとして話題になった「嗅覚障害」。嗅覚は味覚と密接に関係しているため、風邪をひいて鼻がつまったときなどに味がよくわからなくなることがあります。また、においは危険を知らせてくれるサインでもあるため、嗅覚が正常であることは、命を守るうえでも大切なことなのです。



監修 仁保達夫

にほ・たつお  
大船耳鼻咽喉科クリニック院長  
札幌医科大学医学部卒業。横浜市の大学病院とその関連病院などでの20年間の経験を地域医療に生かすために、2020年2月クリニックを開業。幅広い世代の患者さんが気軽に相談できるクリニックを志し、日々診療を行っている。資格は日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医・指導医など。